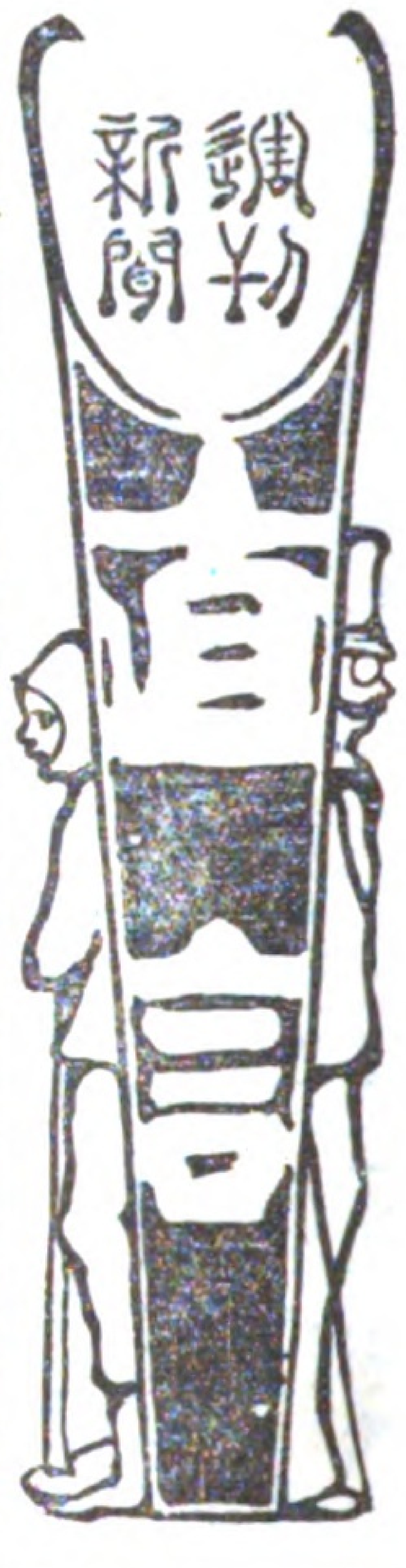


直言 SOCIALISM＝ソーシアリズム＝社會主義＝

社會主義は土地、資本、其他あらゆる生産機關の公有を主張する者なり

○日本政府、對、社會黨

吾人は今日の日本政府が社會主義を恐怖するを見て、之を怪まざる也、社會主義を恐怖するは啻に日本政府の特例のみに非ずして、獨逸の政府が之を恐怖し、露西亞の政府が之を恐怖すると共通の理由に基くことを思へばなり、露西亞政府が社會主義を恐怖し社會黨を壓制するの愚と暴とは、日本國民の嘲笑し且つ憤慨する所に非ずや、吾人は吾人社會主義者を迫害する日本政府の行動を批評するに先ちて、「國民の遠視眼」（露國の壓制に義憤するの明ありて、自國の惰態に無智識なる）に喚起せずんばあらざる也、

社會主義は本來人心の正流的要求なり、而して之をして今日の一大勢力たらしめたるものは則ち近世文明の缺陷也、近世文明の缺陷は遂に極度の頑固者流をすら醸出して、復た「財産私有權の絶對神聖」を叫ぶの勇氣を沮喪せしめたり、今日に當て財産公有論を指して、朝憲を紊亂し、社會の秩序を破壞すと言ふは何んぞや、交通機關の公有は最早や主義として一人の異議なき所に非ずや、日本の裁判所が「私有權廢止」は秩序紊亂なりとて有罪の判決を與へつゝある時、政府は煙草業の私有權を奪つて之を官業と爲せるに非ずや、只だ吾人と日本政府との間には其の目的に於て殆ど雲泥の相違を有す、吾人の生産機關公有論は消費者即ち國民全般の利益を目的とするに反して、日本政府は一に大藏省の收入を眼目とする也、此れ啻に煙草官業の一事に於て明瞭ふべからざる所也、吾人は煙草官業に依て啻に消費の利益が増加せざるのみならず、却て非常なる損失を蒙むれるを知る、何となれば國民は是が爲に粗惡の物品を高價に請求せざるべからざれば也、吾人は往々煙草官業の實驗を援引して、以て吾人の生産機關公有論を駁倒せんとする者に遭遇す、何等の滑稽ぞや、是れ生産機關公有の弊害を辯明するものに非ずして、偶々以て「私有主義」の根本的誤謬を立證するに過ぎざる也、其故何ぞや政府の官業は個人主義の精神を以て營業の競爭を杜絶せんと欲するに在り、恰も米國に於ける資本家の合同の如し、其目的は我私利の壟斷を恣にせんが爲めに同業者の競爭を廢止するに在れば也、去れば今や日本國民に取ての問題は、最早や財産公有の正不正に在らずして、公有制度の主義精神の如何に在り、約言すれば個人主義に依て公有制度を運用すべき乎、將た社會主義に依て之を創建すべき乎に在る也、更に語を換へて之を言へば、日本の官業は米國のトラストの如く、政府の收入、或は資本家の懐中を目的に、營業競爭を壓倒する乎、將た社會主義の主張する根本原理に據て人類競爭の慘劇を消滅せしめんと欲する乎、是れ誠に萬國民の共通問題にして、而して一片の正意を存するものに在りては、決して取捨を誤まらざるべき單純の問題也、

去らば社會主義の恐るべき所、果して何處に在りや、在り、在り、大に在り、是れ個人主義に取ての大恐慌也、資本家に取ての大恐慌也、故に個人主義に依て國を立て、資本家の利益に依て施政の方針を左右せらるゝ所に在りては、其の米國たると、獨逸たると、露西亞たるとに拘らず、社會主義は不倶戴天の仇敵にして其等の邦國は社會主義に取ても同じく不倶戴天の仇敵たる也、吾人は既に日本政府の個人主義を見たり、然らば則ち其の凡ゆる手段を講じて吾人同志を壓迫するもの、豈に理無しと云ふべけんや、然れ共日本の政府は直に日本國民に非る也、政府の官人聲を聯ねて「社會黨は奸賊なり」と呼號するも、是れが爲めに吾人は直に袂を連ねて直に日本の土地を退去するの義務無き也。政府が吾人を指して奸賊なりと吹聽するものは、是れ只だ「告訴」の聲に過ぎざる也、吾人は是れが正當の裁判を人生本來の理想に求めざるべからず、天下尤も憐れむべき者は、政府の「告訴」を聞いて直に之を「判決の宣告」と合點する不見識の評論家と、無邪氣の多數國民と也、

不羈自由なる少壯國民よ、今や「日本政府、對、社會黨」の公判は諸君の眼前に開かれたり、公等何ぞ立つて自ら是れが陪審員たるの權利を振はざるや、

△砂糖水社會主義（スヰートウオーター、ソーシアリズム）

德富蘇峰氏は『社會政策の擴充』を説き、博士金井氏は『社會改良主義』（一名障子の切張主義）を説き、後藤新平氏は『國家的慈善事業』を説き、樋口勘次郎氏は『國家社會主義』を説き、茅原華山氏亦其の所謂『新社會主義』を説く、皆是れ砂糖水社會主義の一種也、

△國家的資本家主義（ステートキャピタリズム）

リーヴクチヒト氏曰く、所謂國家社會主義は、之を國家的資本家主義と呼ぶの更に適切なるに如かずと、個人主義に基ける資本家制度よ、之を經營すること如何に國家的なりと云ふとも、社會主義の精神將た何處に在らんや、

△恐怖の結果也

獨逸社會黨の決議に曰く、國家社會主義は畢竟是れ社會主義に對する恐怖の結果に外ならずと、眞に然り、吾黨は彼の二三子の言ふ所を以て、彼等の吾人に對する最後の降伏の表徴として、今や其第一着の讓歩を爲すものと見ば則ち可也、

△膏藥、塗藥の類

ベラミー氏現社會を以て、人間の一群が巨大なる車の周圍に繫がれて、險しき坂道を挽きあがるに比し、其車上には少數の人ありて安樂の席を占むるを説き、車上の人と車下の人と、苦樂懸絶せるを説き、車下の人、時に負傷して仆るゝあれば、車上の人、僅かに膏藥、塗藥の類を投げて之に與ふと記せり、即ち是れ世の慈善事業と砂糖水社會主義とを痛罵せる者也、

△飴を啣らせる者

膏藥にせよ、塗藥にせよ、砂糖水にせよ皆是れ飴を啣らせんとする者なり、覺醒せる平民は飽くまでも之を以て紳士閥降伏の表徴と爲し、其讓歩の第一着として之を看取せざる可らず、

THE CHOKUGEN.
SOLE ORGAN OF JAPANESE SOCIALIST.
Issued every Sunday.
Communications addressed to the Heiminsha, Tokyo.
Vol. II. Tokyo, May 7th, 1905. No. 14.

THE MEETING OF THE MAY I.

On the night of the May I, we held a meeting in the *Heiminsha*, according to the custom of the international socialism. Comrade Ishikawa delivered a speech about the short hour movement in Europe and America, showing the reason why the May I is remembered. Comrade Sakai also delivered a short speech about the international spirit of Socialism. The members assembled were only fifty or sixty, but they were, we believe, all inflamed with the active spirit, being especially conscious of the fact that they are really making a part of the world wide movement of the noble cause.

It was very interesting that we received a letter just in the very midst of the meeting, from comrade Nishikawa in the Sugamo prison. Comrade Nishikawa is very well in his prison life. He is now reading, he says, "the French Revolution" by Bax with great interest, and learning German Language. Comrade Kotoku who is also in the prison, is a little unwell. But he is also reading many books and learning French Language.

THE REASON OF DISMISSAL OF A POLICEMAN.

The Government is now most earnestly persuading for the officials to read official organ the "*Kokumin Shimbun*," while it is most earnestly obstructing the selling and reading of our "*Chokugen*." A policeman in Tokyo was recently dismissed only because he did not buy and read the "*Kokumin*" as persuaded by his superior. What a funny thing the official life is!

THE PATTERN POLICEMAN.

The bourgeois papers recently reported about the "pattern policeman," all in the same tone. O. called Fukuda, a policeman in Yokohama, resigned his office a few days ago, by the reason of his old age. He was in office working most assiduously, without absent of even one day, during thirty years, and is now fifty two years old. His salary was not more than twelve yen ($6) throughout these long thirty years. He was never raised to sergeant. He is very mild in nature and is accomplished in military arts. And now he is honorably presented with the sum of twenty yen of money from the prefectural governor, as the acknowledgment of his services. He has more honor, it is said, to be presented with a silver watch and a silver cup from the city authorities. Is it not more becoming to call him a pattern slave than a pattern policeman?

直言は日本社會主義の中央機關紙也!!!

（平民社電話　本局三三六二番）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

日本之新聞

○高利國債の好況

去一日より賣出したる第五回内債は非常の好況なりと云へり。吾人は不思議にも茲に「東京日々」の社説を引用するの適當なるを認む、日々子曰く

△蓋公債の募集に當りて其條件の寛厚に失するは……種々の弊害を惹起するものなり、……應募申込額は必ず發行額の數倍若くは數十倍に達すべしと雖も募集國庫の負擔を増加し、終に一般納税者を苦むるに至る……△……又條件の寛厚に失し打歩を生ずるに至れば、公債の應募は一種の投機的性質を帶び、公債の本領を損する……北に依て偶々資利を占むるに反し、眞正なる一般の應募者は……[illegible]

△[illegible]……有力なる銀行が[illegible]組合銀行以外、其の他[illegible]に先立ち[illegible]價格以上の申込みを爲す[illegible]

[illegible]

無邪氣なる國民は、斯くて尚ほ純忠なる愛國なる銀行家の德を頌せんと欲する乎

○貧民を絞て富有を利する國債

吾人は前項に於て「東京日々」に依りて第五回内債を評せり、吾人は又此項に於て、更に「東京朝日」をして其の吾人たらしめんと欲す、「朝日」の「經濟小言」に曰く

△政府は頗る有利なる特權を與へて勸業銀行を創立せり。……而して同銀行は其營業の目的に於て、特に富者の便利の爲に設立せられたるが如き觀を呈す

△本來同銀行の目的は不動産を抵當として低利長期の資金を貸すにあり、故に不動産を所有する者にあらざれば利益すべからず。而して不動産を所有する者の中にても……莫大の利益を被るものは大地主なり。

△是獨り勸業銀行のみならず、地方の農工銀行、北海道の拓殖銀行亦然り。政府の施設が却て貧富の懸隔を助長するの傾きあるは、吾人の遺憾とせざるを得ざる所なり。

△公債の利子の如きも最も著しきは所得税[illegible]、關する法律となす。煙草税、酒税、砂糖税等、比較的貧民の多く負擔する租税に、引上げらるゝと雖も、富者の負擔となるべき直接税の引上は[illegible]國債の利率[illegible]

△國債發行の如きも其の一例なり。平時なれば政府は今日の如く公債の安價を爲さゞれども、戰爭の爲め竟に八分二厘五毛利廻りの國債を續々發行するの必要に迫れり。而して此の安き國債を引受けて利益するものは富者に外ならず。

△政府は右公債の利子を、將來租税中より支拂はざる可らざることゝなり。而して其の租税は……貧者の方比較的富者よりも多く擔任するなり。されば右公債の爲めに、富者の利益するだけは、貧民の懷より絞り取るものなりと云ふべきなり。

嗚呼、政府の施設は貧富の懸絶を助長す、軍事公債の安賣は貧民を絞りて富有を利す。是れ吾人の評語に非ずして「朝日」記者の言也、當局者必ずしも吾人を怨むこと勿れ、念の爲に記す「朝日」記者は此「經濟小言」の前頭に於て「吾人は社會主義者にあらざれども」と斷り

○僞善の鐵鎖

他新聞記事の借用ついでに、茲に少しく「萬朝報」の「嗚呼戰鬪神」と題する社説「の一節を借用せん

△諸君[illegible]の戰死せる者の也、然れども[illegible]して出征するも、兵役に服して[illegible]出征するの也、而して其の出征するも[illegible]日に[illegible]……[illegible]

△諸君は其の死するや、三四百圓若くは七八百圓の一時賜金あるを知る、而して此の賜金が其の遺族を生活せしむるに足らざることも諸君亦た能く之を知れり。而して尚ほ實に人間を犧牲にするを[illegible]

△諸君は志なり、實に人間を犧牲にするを敢てす、我が國民は[illegible]

吾人は彼の戰死者が、死後に至つて猶ほ僞善の鐵鎖に縛せられ、泣かんと欲して泣くこと能はざるの境遇に在るを見て、眞に義憤の念に堪へざるものあるなり

○大隈氏の擬帝國主義・膨張論・憲政本黨に於ける大隈重信氏の演説は大に世の視聽を動かしたるが如し、殊に空氣製造に汲々たる諸新聞紙の如きは、大隈氏が時局を悲觀したりとて、大狼狽を爲せるもの、如し、吾人は此點に於て深く氏の演説に注意する者にあらざれども、氏の擬帝國主義膨張説は言質と爲しおくべき必要あるを見る、氏曰く

△世人は我戰勝の原因を立憲政治に歸す、而して立憲政治の基礎は選擧に在り、然るに從來の選擧は弊竇百出、政府も亦之を[illegible]國民の[illegible]

[illegible]

△又選擧權に就ては現行法の規定は頗り[illegible]に失せり、故に[illegible]

大隈氏の政黨は[illegible]普通選擧に進み、大隈氏の高遠なる擴張に進む、今年冬の議會に於ては、兎にかく一歩を見るを得ん乎、然れども大隈氏の普選説の縮小なる、要するに所謂富に依るものと判斷するの外なし

○資本合同の大勢

澁澤、安田、大倉等の諸富豪に依り、資本金六百萬圓の大水力電氣會社新設せられんとす、而して從來計畫ありし東京水力電氣會社と武相電力會社とは之に合併せらるべし、又關西に於ては、神戸の燐寸業者相計り、清國揚子江沿岸の燐寸業と競爭せん爲め大合同を爲して資本金五百萬圓の大會社を新設せんとし、目下相談中なり、又東京紡績と富士紡績との合同、尾勢地方紡績の合同等、皆近時實業界に於ける注目すべき現象なり、自由競爭の結果は資本合同に歸せざるを得ず、而して大資本の集積は即ち少數の富豪と大多數の貧民とを産出せざるを得ず、而して此勢ひを救はんと欲せば、此の集積せる大資本を個人の手より社會公共の手に移すの外なし、而して是れ實に社會主義の實行也

○▲▲▲▲▲青眼白眼

「△近來女工が多く使用せらるゝので下女奉公をする者が少くなつて、奥樣連が大分不便を感じて居るとの事、家庭の奴隷も慢らモウ日本でも問題になる寄たんだ十數人中、僅に數十萬人、財數四千五百人、偶逆四千人、喧嘩を遣る本は金に在り、と一日々の近事片々にあつた△町村役場の代議士七十餘名、對足モウケ仕事戰爭の爲め俳優が特に其藝の手をて兵役を免除せられた、新聞はそれに就て藝術家、文士、職工などにも同樣の取計にあらば幸なりと書いた△それ程ならイツソ藝者と兵役は勞働者と小百姓とに限るべしと書いたが好い、そして死んだ時では一唯だ誰れを神として祝々して祀するの外はあらずと[illegible]ヤツておいて博士など云ふ者に宿賃にまで貯蓄を剝き立てるものださうな、イツソの事に月給年俸、財產、女房の里方まで書いたらドウだ

●巣鴨の歌

アレから又廿日以上たつてコヽに第二の手紙を出し得るのです○僕の身體のことは心配して呉れるな、モー近頃では三度の飯を一粒も殘さずに食べる樣になり且つ味も覺えて來たから大丈夫だ、獄飯にした味を覺えて何となく不毛の地を畑にした樣な氣がする○毎日卅分の運動時間が一番愉快だ、運動場から富も見ます、告天子の歌も見ました、蝶も見ました、又運動場の芝生の上にはスミレ、タンポヽなどが咲いて居ります、獄中にも此花わるを悅こんで呉れ給へ、秋水の病監に行かざる前、余に一首あり「──浦島が芝生に咲けるタンポヽに、二人の囚徒をたのしむ──タンポヽ、尚あまざるも、今や又彼れと共に此花を見るを得ず○夜は星を見、蛙の聲を聞いて樂しんで居ります、一獄窓にうつる星影仰ぎつゝ、我れ思めぬ、夜のつれ〳〵」小夜ふけて蛙の聲の聞ゆなり、夏の樂師のはやも出づるか「ホト、ギス鳴く時々聞きます一目をさまし思ひに耽る折柄に、獄の空にホト、ギス鳴く」○本は先月より少しく餘計に讀んで、獨乙語は百六十頁まで濟ぎ付けた Boxの「倫理的唯物論」モ一日で讀了する所だ、僕は此の書を讀みながら時々微笑した、之れにより僕の獄中の意氣を察して呉れ給へ、國際書簡の俳話も讀んで居る、此の書中の俳句を讀みながら腦中に風景畫を描へ旅行でもして居る氣にもなりなどして居る○去る七日及廿五日出の御手紙有難う多謝々々社中御一同に御變りのないこと、社の方も運動の方も好況と聞いて悅んで居ります、山口原兩氏の事業へ出金のこと元より異論のあらう筈なし○教文館に注文してある本の來る頃だが、來たらスグ書名を知らして呉れ給へ○松岡さんに「御手數恐れ入るが史記列傳と報德記と福翁自傳を差入れて下さい」と御傳へを乞ふ○延岡さんに宜しく○蔭ながら宜しく○幸徳家御一同に宜しく○木下家御一同に宜しく○小野山田兩氏へ宜しく○兒玉、堺井兩氏へ「スケッチ」有難う、次號は雜誌として如何と御傳へ下さい○此月は不許の分は別として手紙を總計五十二本貰ひました、之れは手紙を貰つた度に石盤の端へ書きつけて置いたのを今朝合計した結果です○一昨迄のツタの新芽や出づらん、其が紅葉せば我歸るなり「どうかツタの芽の大きくなるのを悅こんで呉れ玉へ、僕は桐の木を見て一桐の芽の日に〳〵のびる早さかな」と悅こんで居ります、

四月二十日　西川光二郞

堺利彥樣

●嗚呼九十九里

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　坂川春山稿

白き眞砂に、寄る浪、沖の白帆を見渡せば、遥りしれざる和田の原、波のまに〳〵二つ三つ、あまの小舟の浮ぶさま、實にめでたき眺めや」かゝる明媚の土地ながら、海士は年頃續く不漁、舟は出せど獲物なく、糧にかふべき代なくて、あまのかゝる濱にすむ虫の、我から喉を呼わはれ」己れ一人の身なりせば、何と喉かん捨小舟、されどつき添ふ妻や子の、餓を叫ぶをア、如何に、傾く波より乘乳根の、飢に過ぎゆく如何にせむ」戀情のきはみかくなれば、人のなす業おのがわざ、網を結ぶや蜉蝣の、澤田に田螺、野に芹菜、かくて糧をも立つ煙、うすらぎ行くぞあはれなる」嗚呼天地をしろしめす、神てふものゝ在しまさば、など救はぬこの民を、如何で助けぬ神の子を、小夜の嵐に波たてゝ、夜な〳〵聞ゆ鬼の叫びぞ」

●編輯雜記

▲●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●
▲週刊社會新聞紙面の都合に依りて又休みました、次號には必ず〳〵。そして瞬五回位で完結にしたいと思ひます。
▲貧乏大戰爭と云ふ面白い一文が次號に載せます。それは金子喜一氏の筆。
▲平民社より二回つゞけて休みましたが、次號からは又書きます。次號には平民社の經濟的困難なる近況を報じたいと思ひます。
▲貧富政治の機關紙は深尾韶君が態々野田町に赴きて觀察し得たるもの。蓋し直言紙上近來の出色文字と思ひます。御精讀を乞ふ。
▲社會主義と商業に關する記事を望むと云ふ御注文がありました近日必ず一文を試みませう。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

世界之新聞

○亞爾米尼革命黨の急訴

頃者萬國社會黨本部より日本社會黨に宛て丶左の書狀を送り來れり、是れ瑞西ゼネワに在るアルメニア革命同盟の機關新聞ドロスチアック記者より本部に送致せるものにして、本部は之を各國社會黨に頒布せるなり。

親愛なる同志よ、　甚だ基督教徒的なるニコラス第二世皇帝の帝國治下コーカサスに於て、アルメニア民族の蒙むれる人道無視の大慘禍を、文明諸國に公表するの榮を取らせん事を希ふ。

(一)

抑々彼露國專政制度は千八百九十五年より九十六年に亘れる土耳古アルメニアの大虐殺に飽き足らずして、更にコーカサス統治の爲め最も危險なりと認めたる分子アルメニア民族を帝國領內に蹂躙し根絕せしめんと始めつゝあり。

而して遂に第二のキシネフ事件は工業大都バクに向ひて慘絕の極度を以て襲ひ來れり。

是より先にコーカサス地方各民族數萬の同盟罷工者は資本家制度と專政制度とに對し堅々たる態度に於て結合し居たりしが、露國の奸猾なる政府者の陰謀は遂に韃靼たる土耳古人とアルメニア人とを離間反目せしむるの策を成功せしめたり。

斯の如くにして遂に土耳古人とアルメニア人との間に戰鬪は開かれ、アルメニア人中七八百の死者と之に倍する負傷者を出し、其市街は破壞せられ、家屋は放火せられ、全家族は生きながら燒死するの悲慘に餘儀なくせしめられぬ。

斯の如き野蠻極まれる光景の演ぜられたるにも係らず政府は只だ傍觀せり。州知事やコサック兵は只だ無頼着なる眼光を以て靜觀せり。否々彼等は只に爲す無きのみにはあらざりき。警察官及コサック兵は實に土耳古人を援助して兇頼の徒に武器を與へ且つアルメニア人の武器を奪ふ可き命令を受け居たりしなり。

然れば無數の土耳古無頼軍は全市街到る處に於て自由に騷擾し殺人し劫掠し放火し居たるに反し、アルメニア勞働者にしてバラハニー工場より市街の中央部に急馳し同民族の援助を求めんとしたる者の如き皆中途にコサック兵に捕られ其武器を奪取せられぬ。是時に於てアルメニア革命同盟の勇敢なる戰士數百名は武裝してアルメニア市街の首要部分に固ばれコサック兵に反抗して遂に土耳古人を驅逐し去れり。土耳古人は僅々二百五十人の死者を出したるに反しアルメニア人が出したる犧牲の巨大なりしは全く斯の如き狀況の中にありし故なり。

(二)

此間アルメニア革命委員會は誠に能く其機能を盡したり。彼は先づ州知事ナカシヅェに向ひて暴亂を鎭定す可く請願したりしも其効なきを見るや直に自ら力を致して復讐の應策を爲せり。然れども委員會は此陰謀が全く露國政府によりて企てられたるものにて土耳古人の激起したるも單に一時的現象に過ぎざるを知り居たる故、土耳古人に對し非常手段を加ふるは其忍ぶ所にあらざりしなり。而して亦土耳古中にも志あるものは能く此陰謀の眞實を察知してアルメニア人に退路を與へて其生命を全うせしめたる者鮮なからざりき。

(三)

諸君よ、　諸君は今正に危險なる怖る可き事實の前に立てるなり何となれば此事實はトランスコーケシアの他の各市に於て、アルメニア人と土耳古人との雜居する到る處に於てかゝる悲劇を爆發せしむべき導火線となるの恐あればなり。

今日コーカサス地方の各民族アルメニア人露國人グルジア人及土耳古人は一致して左の意味の宣言書を發せんと準備しつゝあり。

「露人をして相鬪はせしめたる張本人は露國政府なり。蓋し彼は革命の怪物によつて恐怖せられ、コーカサス地方人民の自由なる空氣を窒塞せしめんと欲して、異種族間に於て衝突の起らんことを常に煽動しつゝあるものなり。」

終りに臨み吾人は數千の犧牲者の名に於て諸君に希ふ。願くば彼の殺人に對して公然反抗の聲をあげ、醜慢なる專政制度の暴虐を文明諸國民に公表せられん事を

アルメニア革命同盟の機關新聞
一九〇五年三月十日　ドロスチアック編輯局
萬國社會黨本部御中

奮鬪せよアルメニアの同志！、今や革命の氣は磅礴として地球の全面を蓋へるに非ずや。

○露國の五月一日(メイデイ)

露國ワルソーの同志も萬國社會黨の大紀念日たる五月一日に於て示威運動を行ひ而して遂に軍隊と衝突するに至れり。

△五月三日外務省着の電報に曰くワルソーに於て五月一日再び騷亂を生じ流血を見るに至れり、右に關するワルソー通信に依れば約五千名の職工は其家族を伴ひ赤旗(社會黨の旗)を飜して示威運動を行ひしに騎兵及び步兵は彼等の群集を攻撃し二回の射撃を行へり、之が爲めに斃れたるもの百名以上に達し群集は直ちに逃走せしも亦々射撃を蒙れり其結果死傷約百五十名に上れりと傳へらる商店は總て閉鎖せり

△又曰く、ワルソーに於ては五月一日午後軍隊と職工との間に起りたる重大なる衝突の結果として流血を見るに至れり、目撃者の言に依れば右騎兵の攻撃は決して職工側よりの挑發に基くものに非ずと云ふ

又曰く、職工と軍隊との間に更に一の衝突あり一の爆裂彈はコサック巡邏隊に投ぜられコサック兵三名及び巡查一名之が爲め殺されたり。

△更に又、三日伯林發の電報に曰く、露國ワルソーに於て新に勞働者の擾亂起り軍隊は之に向て發砲し九十名の死者を出したり又たロヅに於て一萬五千人の同盟罷工起りたるのみならず其他ミンシュ及カリシュ(波蘭)地方に於ても擾亂始まりたり。

嗚呼五月一日、此日既に萬國勞働黨の爲に大紀念日たり(六頁「五月一日」參照)、然るに吾人は今また露國の同志によりて更らに此日に一大紀念を加へたる也、此日僅かに狹隘なる平民社樓上に跼蹐せざるを得ざりし吾人、豈に深く羞じて而して發奮せざるなきを得んや。

○ガポン長老と社會黨

同志ルーバノキッチ氏は自ら其ガポン長老の書狀なることを證して左の一書を萬國社會黨本部に呈出せり。

セントピータースブルクに於て、皇帝に請願書を捧呈せんとしたる露國勞働者の企圖に關し、全ての誤解を避けん爲め、予は辯明す。革命は勞働階級の利益を保護す可き唯一の保證にして、是によつて萬國社會黨の勝利を占むべき基礎を建設すべきなり。然れども予は、自由と眞理との追求の上に立てる強固なる確信を有するものなり。即ち運動の一致により始めて此事業は成功すべきものなりと。故に、露國勞働者の革命運動の組織に關し、露國二社會黨の一致を主張せらるゝ、各國社會黨に左の如く通告せられん事を請ふ。

予は、斯の如き共同運動が實行せらるゝ迄、二黨の何れに加入するも共に早計なりと信ず。

最後に予は謹んで我が親愛なる同志の爲めに叫呼す

萬國社會黨萬歲!!!

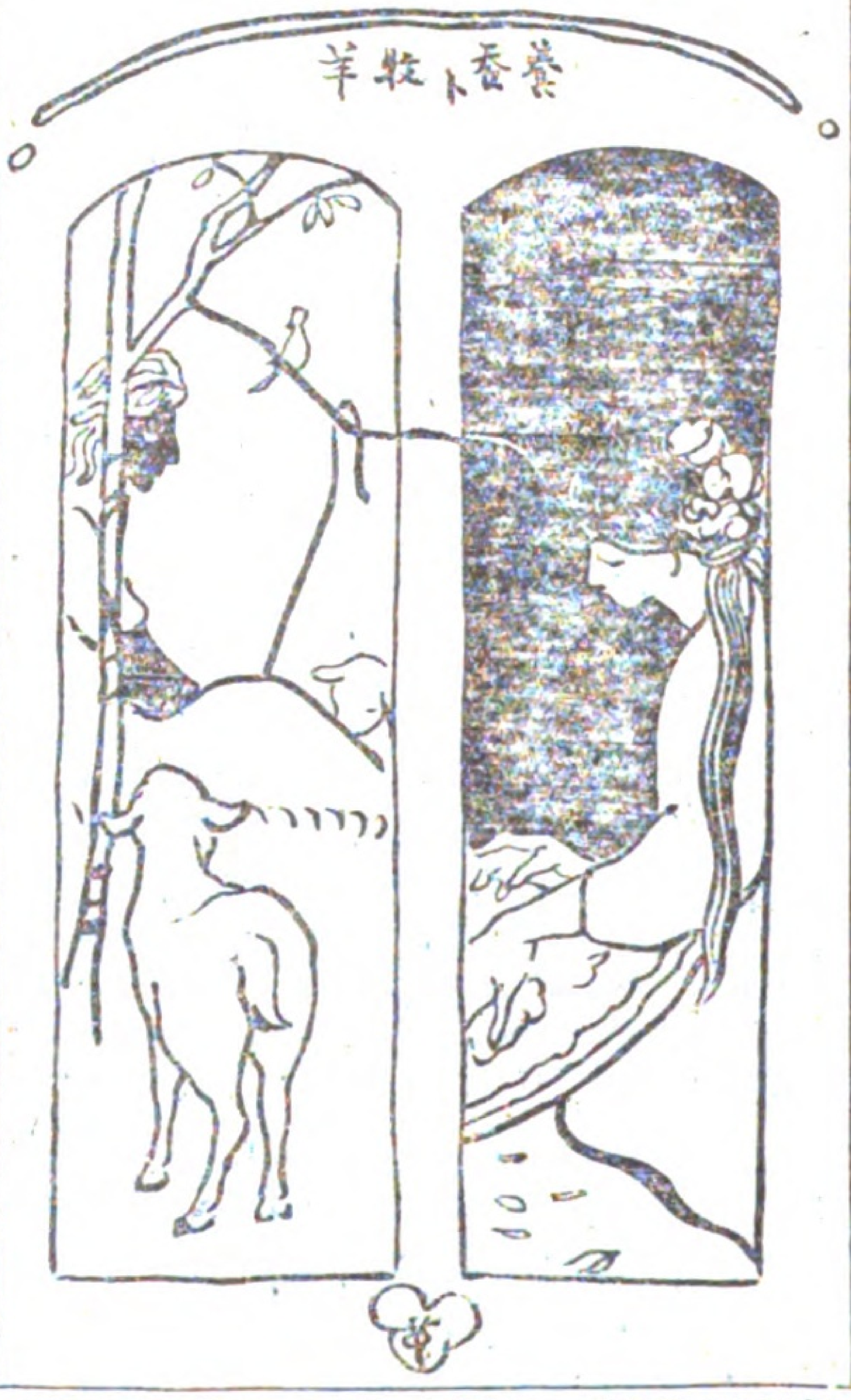
ゲオルヂ・ガポン

萬國社會黨本部書記カミルユイスマン氏は之を媒送するに當り之に附加して曰く

△露國社會黨本部の幹事は露國同志に對し、ガポン長老の勸告に即り摩戟を捲び且つ佛蘭西同志に依て實行せられし各派結合の好實例に傚はんとを希望す

△猶は幹事は各國の社會主義代表者に告げて曰く、此の危急存亡の秋に當りて露國社會黨をして一致結合せしむるに盡力せられんとを希ふと。

露國革命黨は今や皆な一の共同の敵と相對峙する也、此秋に當りて平民黨の取るべきは唯だ一致の奮鬪にあり。



○濠洲に於ける社會黨

社會主義は南半球に在る濠洲の地に於ても、他の諸國の如く其戰鬪に勝ちつゝあり。

△近時ニュー、サウス、ウエールスのシドニー市に於ては勞働者の政治的聯合大會開かれたり、而して此大會は五十に對する八十の投票に依り、勞働黨をして永遠に社會主義的基礎の上に存立せしむるとを決したり、諸種の勞働黨員は其の政治的希望を危殆ならしめられんことを大に怖れて此の動機に反對を試み、前宰相ワトソン氏は吾黨の上に壓制を加へたるに係はらず、同志カン氏及びモーリス氏は能く總ての反對を擊破し、而して戰鬪の題目たる銀行國有の動議は炭礦國有の議と共に成功せり。

△又此大會に於て婦人は甚だ重要なる活動を爲したるが如し、彼等は婦人に關する法律を改正し、結婚して共同生活にある妻をして公平なる割合に於て權利を有せしめ、又た其法の適用を良人に對すると同樣にすべき旨の動議を提し而して之を成立せしめたり

吾人は何れを見るも社會黨の進步が駸々乎として天下を風靡し行くに我ながら喫驚する者也。

○リスニヤに於ける社會主義

露國リスニヤ社會黨は從來多く世に著はれざりしが、同黨は今やリガ市に本部を置きてバルチック沿岸諸州に盛に活動しつゝあり、目下同市に在る六千の勞働者は同盟罷工を行ひ、鐵道は輸送する貨物を有せざるの有樣なるが、同黨の秘密印刷所は機關新聞「戰鬪者」の外數種の小冊子を刷出して此罷工者の間に撒布しつゝあり、印刷職工は大困難の下に殆ど日夜を別たず勞働しつゝありと云ふ。

○獨逸政府相續稅を起さんとす

三日發ルーター電報に曰く獨逸政府は相續稅を起さんと計畫しつゝあり、而て之に依り同政府は年々一億馬克の歲入增加を得べしと、其動機の如何に係はらず獨乙平民の爲めに賀すべきなり。

●巣鴨の詩

病の床に横はつてから早や廿日餘り夢と過ぎた、先頃も何處からか風に任する櫻花の二ひら三片、鐵格子の前に落つるのを見て都門の春もいつしか暮行らむと哀れに覺へた△我等病氣は腸胃の加答兒とかで、消化の力が痛く衰へ、粥、くず湯、卵の類の外は攝取し得ぬので、體力の十分復するには、少しは長くかゝるであらうが、餘病さへ起らねば決して心配すべき症では無いやうだ、幸ひに身には左せる痛みも苦みもないので心靜かに養生して居る△養痾鐵窓底、跌坐似枯禪、兵馬擾擾鬪、史書接聖賢、逍遙九萬里、上下二千年、一氣猶存我、名之曰浩然、(莊子云、有國於蝸之左角、曰觸氏、有國於蝸之右角、曰蠻氏)△兎に角幼より書を讀み道を聞ける難有さには、聊か天を樂み命に安ずる趣味も解して居るから蕭然たる一室に獨居しても、窓に映る星光、枕に通ふ蛙鳴、いづれか我友ならぬはない、夜々の夢もいと穩かである、母上樣にも御心配なきやう、よく御慰め申してくれ△但し讀書は近來疲れの爲めに休みがちだが、其代り各地の兄弟姉妹からの手紙が此上なき樂みで、其同情厚き言葉を常に胸の中に繰返して居る、おん身の端書に、兆民先生今在さばとあつたが、我等も實に其感に堪へぬ、何角につけて恩師のことが思ひ出される△佛語だけは、どうやら今日まで纔の如く續けて來た、紙製の石盤で每日文法のエキザーサイスをやつて居る、枯川君は英文が嘸ぞ上手になつたであろう△月一通と限れる手紙を先月は社に送つたから今月はおん身にあてる、讀了つたら直ぐ枯川君の方へ廻して呉れ△昨夜東風細雨斜、階前春草綠彌加、却憐昆谷原頭夕、人泣劉郎去後花、

四月三十日朝、獄上に認む　秋水

千代子樣

少し差障り且つ削訂したい個所があるから『神聲』と『ラサール』を郵便で送つてくれ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

●性慾論(下)

枯川生抄譯

(五)放縦主義と禁慾主義

然れども吾人は決して肉慾を不潔の者と爲して之を斥けんと欲するに非ず。由來、絶對に肉慾を賤み、全く之を去らんと試みたる者は、個人と團體とを問はず永き實行の後に至り、徒らに人の性情を傷ひ、或は反動的に大放縦に陷るを見る。故に物質上の基礎は人生第一重要の事たるを忘る可らず、此の物質上の基礎なくば種々高尚なる能力も存在すること能はず、假し存在するも發現すること能はず。人の相交るや、若し何等かの形に於ける物質的基礎なくば、其交りや根の無き植木の如し。單に知識道德の接近より來れる交友の如きは、滅多に餘り深くもならず、又永續すること稀なり。多くの場合に於て(殊に婦人に於て)、よし些かなりとも性的感情の動かざる限りは、其本性は決して眞に發露するものに非ず。又二人間の完全なる親交の爲には、其境遇と事情とに應じて、相互に他の身體に對する自由なかる可らず、勿論、形體上の密接は必ずしも彼等が相近づくの目的ならざるべし。而も若し其自由が拒まるゝ場合には、眞の安心の感を生ぜず、從つて其關係は何となく物足らず思はるべし。

斯くの如く見來れば、謂はゆる禁慾主義と謂はゆる放縦主義とは、畢竟是れ同じ楯の兩面たるを知り得べし。即ち一方に於て、單に快樂に耽らんとする放縦の傾向ある間は、禁慾的本能は他の一方に於て其力を示さゞるを得ず、禁慾主義は元來克己修練の業なり。之を以て直ちに人生の目的とするは、他の放縦の極端に走ると同じく、大いなる誤謬と謂はざるを得ず。人若し眞に我が愛する者の安樂幸福を以て念と爲さば、節制克己は自から其間に行はれ、機械的なる禁慾主義は其必要を見ざるに至るべし。故に吾人は信ず、此の不完全なる人生の二個の性質が、何時かは必ず其反目を止めて、眞の完全なる愛に融合するの時あるべき事を。然れども、其事未だ行はれざる今日に於ては、此反目は實に吾人經驗中の最大事件たり。吾人は決して之を避け、之を蔽ふべきに非ず。吾人は只斷然として之に面するの外なし。

(六)虚僞なる羞耻

抑々性慾の快樂は他の一切快樂の標本なり。凡そ自から來るの快樂に非ずして求めて後之を得るの快樂は、時として不滿足を來す事あり。性慾の快樂亦實に斯の如し。然れども其不滿足は決して快樂其物に存するに非ず、只之を外物に求むるの點に存す。外物は皆善盡美盡なり。彼等は王の座を回つて暦々相接し、常に王に向つて其敬禮を捧ぐべし。其時我は常に自由に其快樂を受くべきなり。若し我れ自から我を離れて之を追ひ、彼の引力に依つて我を二分する事あらば、そは既に天の法則に背けるものなり。

元來、快樂は自然に此生活に隨伴して來るべき者にして、決して生活の目的として之を求むべき者に非ず。快樂に不潔の意義を附するは此法則を紊るより生ず今や性慾は文明世界の全部を通じて不潔なる快樂として認識せらる。人情和樂の爲にも非ず、子孫を得んが爲にも非ず、甚深なる精神結合の眞徴にも非ず、そは只人間淫蕩の爲に存在せり。故に人は追に其良心に憚り、虚僞なる羞耻を以て之を蔽へり。斯くて人の身體は宗教的に包み隱さず、勉めて自然の清淨の氣を遮け、汚れと病とを滿載して、徒らに色慾の目的物と爲り終れり。若し赤裸々にして之を放置せば、安んぞ爾く淫思を挑發するの恐あらんや。若し人常に好んで其皮膚を太陽と風とに曝さば、露を含める薔薇の如く、必ず麗はしの色を呈すべし然るに今の人の皮膚を見よ、萎びたるが如く、死したるが如く全面蒼白にして些の活氣なきに非ずや。而し猶之を以て彼の自然の色に優ると爲すは、實に笑ふべきの甚だしきものに非ずや。又今の男女の相會ふや、自然翁の惠に依ること常に甚だ稀なり。自然翁の眼前に於て即ち或は輝々たる太陽の下に於て、或は燦然たる星光の下に於て、常に香ばしき空氣に包まれてこそ、男女相會ふの意義を眞に十分に解せらるべきに非ずや。

(七)男女性交の神聖

彼の文學の如き、其性質上、此題目に就て美しき表現を爲し得べき筈なるに、猶その時として態とらしき沈默を守り、時としてモドかしげに浮き立つを見れば不信仰なる時代精神が、こゝにも其影を現はせるを知るに足るべし。人若し此題目に就て、眞に摯實穩健なる文學を見んと欲せば、遠く東洋古代に於けるアリアン人種の曙の歌を聞くの外なし。

吠陀聖典の一を見るに、脊き子を得んと欲する男子は、其妻と寢ぬるに當り、自然造化の諸神に向つて祈禱を捧げよと敎へたる一節あり。即ち聖典は其原始的なる、單純にして森嚴なる語氣を以て説いて曰く。未來の母の子宮を準備せん爲にはヴイシユマの神に祈れ、精液の流入を守護せんが爲にはプラヤパチの神に祈れ、卵子の生育の爲には他の諸神に祈れと。予は是を拉典譯にて讀みたるが、其感情の宗教的なること、何物か能く之に及ぶべき。然るにマクスミユラー氏は東洋の諸聖典を英譯するに當り、是等の數句を譯すること能はずして、サンスクリツトの原文の儘に之を挿入せり。更に之を獨逸譯に見るに、『不可譯』『不可譯』の文字の處々に點綴せらるゝを見る。古代思想の敬虔と神聖とは、到底この現代に『不可譯』なるか、噫。

斯くの如くして、今の輿論、文學、風俗、法律、悉く皆性慾を不潔とするの思想に侵觸せられ、其清美を説かん事は愈々困難となりつゝあり。

或市營水浴場に於ては、入浴者は必ず或蔽ひ物を着くるの定あるに係はらず、猶且つ夜九時を過ぎざれば入浴を許さゞるを聞けり。是れ蓋し、白晝に於ては、日神が若しチラリとなりとも人の肉體を見たまふ事もやと恐れたるなるべし。されば婦人の水浴の如きは思ひも寄らぬ一大禁物となり居れり。

斯くの如き、人體に關する不潔不快の感の去らざる限りは、自由にして美しき公共生活は到底望まれ得べきに非ず。若し社會的思想が更に發達して人間の眞の誇りたる自由自尊の念盛んならば、男女間に於ける此の最親の關係を、明白に、卒直に、純潔に保持し、肉體を商品とするが如き賣買的戀愛を離るゝは勿論、徒らに之を蔽ひ之を包むが如き宗敎的僞善も、亦をのづから消滅すべきなり。而して社會生活の新風習として、人の身體の健全、喜び、其の自然の職分の敎育を樂み、公明に、正大に、自由に、清く且つ美しく、之を保つに至るべし。

又想ふに、共同生活の感情更に發達して、眞に人間同棲の風を養ふに至らば、彼の性交の如きは大いに其價値を減じ、人間愛情の總額中、只一部特殊なる小分子として認識せらるゝに至らん、同時に又、極めて自由なる愛情的結合の生ずる結果として、肉體上に於ける實際の結合は必ず大に其須要の度を減ずるに至るべし。そは兎もあれ、人間將來の社會に於て、男女の性的關係が其の圍繞せられたる不潔の感情より脱却して、殆ど宗敎的なる神聖の感情に復歸せんとは、疑ふ可らざる事實なるべし。斯てこそ人は始て自己の生活を支配する自由人として其生活の神性を誇り、公々然として其身體の美を誇り得るに至らん。

●雜誌品騭

文藝雜誌一束

介山人

△市に溢れた青年文藝雜誌の中、三つ四つ讀めて見やう、固より雜誌店頭の瞥見録に過ぎぬので品騭と云ふほどのものでは無い。

△『文庫』 歴史の長いだけに兎も角この種類の中の冠たるものだらう、小島烏水、河井醉茗、服部躬治、瀧澤秋曉などが大將株と見受けられる。評論文は概して活氣に乏しく、編輯も統一が無い樣で、雜然紛々たるところがある。この雜誌の特色とするところは、穩和で流麗な韵文にあるので、今の新體詩界に文庫派といふ一旗幟を立てゝ居るのだが、僕等が見て最も特色と思はれるのは、例の六號文字の惡口皮肉だ。折々骨を刺す樣な警言が現れる。

△『天鼓』 鐵雲が三十號を標榜して起つたのは我心を得て居るが、無暗に讀賣な量す可きては無い。特色は無論前號の評論文で、これは他に類が無いが、六號文字は鋭利(毒氣?)を缺く氣味がある。知名の士の文章に興味のあるのが少いのは何故だらう。因果の酷人論などは面白い。

△『新潮』 これは創めて新聲を起した佐藤橘香と云ふ人がやつて居る。執筆者は伊藤銀月、佐藤紅綠、金子薫園、田口掬汀などで、秋田臭い雜誌だ。併し橘香の文藝雜誌編輯の手腕は侮り難いもので、隨分多趣味の揃へ方をする。この人月の半ばは劇評にある。隨分多趣味な芝居好だから、勢その特色は劇評にある。隨分達者だ。多趣味を求めて極めて下品に陷る事があるのは、此雜誌の大缺點である。

△『新聲』 橘香——酔陽——北星と云ふ系統で、今度隆文館から復活した。まだ日は淺いが、編輯ぶりが兎角沼氣に乏しく、當年の多趣味を缺く樣だ。草村北星が主任、千葉江東と云ふ人が編輯をやつて居る。これぞと云ふ特色も見へない。

△『明星』 例の新詩社一派の機關だ。韵文界に於ては一方の雄鎭だらうが、生憎僕は星だの菫だの戀だのに緣の遠い人間だから、一寸評し難いので、止める。以上の外『ホトヽギス』だの、『白百合』だの、それからハガキ雜誌が木の葉の樣に澤山あるが、いづれ機を見て。

△この種の雜誌は表紙を見れば内容がわかる。『文庫』は一寸渋い。『天鼓』は派手過ぎて贅乏ッたい。『新潮』は奇抜で人目を引く。『ホトヽギス』は凝つたもの。『明星』『白百合』はハイカラ。『新聲』のは何と云ふ沒趣味だ。あの拙劣な裸女を描き出したのは何の爲か氣が知れない

○吉田璣氏に關する嫌疑

吾人の同志として運動を共にし居たる吉田璣氏は去廿六日脅喝取財未遂の嫌疑を以て告發せられ、目下東京監獄に在り、吾人は未だ其の所謂嫌疑の事實を知らず、吾人は今に於て氏の爲に辯解し或は辯護するは、彼の平生吾人に敵意を挿める警察及び新聞が殊更に此機を利用して惡名を附せんとすると同じく、全く無意義の事たるを思ふが故に、只此事實を記して他日を俟つ、吾人は固より我同志中より刑事被告人を出だす事を名誉とする者にあらず、然れども又、時に同志中より被告人を出だす事ありとも、敢て之を以て驚くべしと爲す者にあらず、吾人の同志中には、巧みに吾人を敷き居る政府の犬すら交り居るに非ずや

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

黄金政治の模範村

深尾少策

（一）野田町

△千葉縣東葛飾郡野田町と云へば、古來關東に於ける醤油の醸造地として、既に知られたる所、而して近來に於ける其異常なる發達は、純然たる黄金政治の模範村を現出せりと聞き、之を社會主義者の見地より觀察し、批評するは、頗る興味あることならんと、予は去月末の二日を此地に費し、不十分ながらも左の記事を作るを得たり。

△野田は、戸數千三百三十二、人口六千九百あり。此の戸數を職業別に區分すれば、大凡左の如し。

農業　一五〇　工業　七〇四　商業　五一七
漁業其他　五五六　不詳　三九

而して、最近同町による市場産物は

●醤油　七五、一六〇石　●酒造　四、四八〇石
●雑穀　六七、四〇〇俵　●米穀　七〇八〇俵

（二）政治

△野田町の歴史は、カナリに古く、徳川時代に於ても、既に殆んど現今の如く資本家と勞働者との間に、殆んど階級なる區別あることなく、又その資本家相互の間にとても、何等の競爭、紛擾あらずして十八十種の醸造を營みしものゝ如し。然るに、明治維新の後、一日も停止することなく、大は小を呑み、弱は強に併せ、現今に至りては、野田の醤油なるものは、僅か九軒の大資本家によりて占めらるるに至れり。

△予は信ず、現今九軒の醸造家も、遂に一家の所有に歸するの時なきを保せずと。見よ、大なる七家の間にも、小なる二家あるを知らずや、而して此の大なる七家なるものも、其の五家は茂木家にして、高梨、山下の兩家は、唯其の係累の地位に留まるに非ずや、野田の醤油が、將來、茂木一家の獨占に歸すべきは、殆んど疑を容れざる所なり。而も其の時機の今日に到來せざるは、彼等が競爭の弊を恐れて、稍かに聯絡の策を講ずるが爲めのみ。

△野田の醤油一既に彼等の手中に歸し、而して金力あり、人材あり、彼等爲さんと欲して爲す能はざるものなし。野田町に自治制存在すと雖も、そは只九家の自治制のみ、千三百有餘戸の自治制には非ざる也。議員は九家によりて選ばれ、豫算は九家によりて決せらる。有給町長は九家の事務員として傭はれ、壯大なる學校の校長は彼等九家の恩惠を誇張して語るべき蓄音器たらざるやの觀あり。野田の人民は、公共のことに關して金を出させられこそすれ、相談にも與らせられざるなり。故に人民は、コレも九家の恩み、ソレも有難い御都合と、只管感涙に咽ぶより外に途あることなし。

△九個の醸造家は又、鐵道と電話とを私有せり。而して此の鐵道も電話も唯醤油の爲めにのみ使用せられて、一般人民は之に指さすことすら許されざるなり。而して鐵道の所々に掲示して曰く「軌道内は危險故に漫りに立ち入るべからず、野田警察分署」と、予は之を見て、警察も亦只九家のためにのみ必要なるものならんと思ひたり。

（三）醤油業の現況

△野田町に於て製造さるゝ醤油の重なるものは、本白、龜甲萬、上十等なり。此の本白を醸造する茂木七郎右衛門は、常に町に於ける富家の最たるものにして、土地ばかりも千町歩を有し、莫大なる資産ありといふ。而して常に百人乃至二百人の勞働者を使役して、毎年約二萬石を製出す。之に次ぐは、龜甲萬の茂木佐平治にして、造石一萬五六千に達すといふ。而して第三位を占むる上十の高梨が八千石とす。

△製造の方法は、極めて單純幼稚なる古風を襲用し、原動力を使用せるものは只茂木七郎右衛門の中藏一軒のみ。而して此の原動力も僅々二十八馬力の蒸氣機關一個に過ぎず。されど麥を煎り、モロミを搾り、醤油樽に文字を記入すべき墨汁を擂るまで、此の原動力によりて爲さるるを思へば、此小さき機關も確かに野田町に一變化を齎らすの力あるが如し。此の蒸氣機關を始めて當町に輸入したるは明治三十六年なりきとぞ。

（原動力の輸入と共に、定めし多くの失業者を出せしならんと[illegible]、戰爭以來、エキスに作り、又一方に軍地に送らるゝため[illegible]原動力[illegible]失業者の多くなりし[illegible]ありと云ふ）

（四）上下なる資本家

△野田の如く本邦にして資本家の成功したる、換言すれば、何の抵抗もなく勞働者の權利を奪ひ去られたる地は、蓋し多からざるべし。野田の資本家が如何にして成功せしやは、極めて興味ある問題たるも、茂木啓三郎といふ甚だ智慧のある男あり。苦心惨憺、醸造法に改良を加へて大に『造家』の利益を興せしを始めとして、今は茂木一統のみならず、野田醤油業組合の顧問官たる地位に在り、先年勲章まで賜はりたる人物にて、頗る巧妙なる政策を實行しつゝあり。數年前、失業者多く、生活の困難を極めしとき、彼は私費を抛ちて、愛樹園てふ公園を設計し、草鞋を穿きて土籠を運搬する者には、老人といはず小兒と云はず、日給十八錢を給せりといふ。又、毎年甘酒の接待といふ事あり。常日は『造家』の『奥様』『お嬢様』たち、今日を晴れと粧ひを凝らして、端近く出御まし〳〵、御手づから柄杓を執りて勞働者のために酌をなし給ふ、常には拜み奉る事さへ容易ならぬ御方樣のお酌なれば、勞働者は有難涙に咽ぶのみにて、唯勿體なくも亦無上の名譽なりとして永く忘れざる所なりといふ。かくて勞働者の無性に嬉しがりつゝある間に、資本家のトラストは無事に成立せり。爾來、相互の競爭はなく、人民の反抗は不可能となり、積立金は百年間に七億圓に上るべき豫算なりとぞ。若し不幸にしてトラスト中の一家が損失をなせし時は、此トラストの資金を以て救濟することゝなり居る也。あゝ七億圓！彼等が國家を要せずと叫ぶの時は百年後に於て來らざるか。七億の軍資を有する彼等が『我は國家以上の權力者也、我は國債を募集するの必要なし、憐れなる勞働者よ來りて我に汝の有らゆるものを奪はしめよ』と叫ぶの聲、既に髣髴として吾人の耳朶に響くに非ずや。

（五）犬の如き勞働者

△かくて、資本家を美衣美食に飽かしめ、湖畔暗き醸造場に、醤油の汁を浴びて働きつゝある千人の勞工は、如何なる状態にありや。予をして少しく語らしめよ。

△此職工一人が一年間に生産する醤油は約百石なりといふ。諸君、一合一錢とするも尚は一萬圓の價格を生産するに非ずや。而して彼等の報酬は一ケ年最高四十四圓、普通二十五圓にして、此外には、殆んど皆無に類する菜代なるものと、年約一割の賞與とに過ぎず。あゝ是れ人間生活の適當なる分配なりや。一ケ月三圓に足らぬ、若しくは四圓に足らぬ金錢を以て、妻子を養ふことを得べきや。一方には斯かる苛酷なる方法を設くると共に、人間生存てふ副點を捉へて、資本家等は勞働者に飼犬の如く飯を與ふることを發明せり。哀れなる勞働者が、工場給與の味噌汁と漬物とに舌鼓を鳴らす時、彼等の妻子が弁當箱を手にして、醤油のモロミや飯の食ひ餘りを貰はんとて集ひ來るを見るべし。あゝ一萬圓の生産者は、此の如くにして漸く、實際『萬分一』の分け前を有り難げに頂戴仕らざるべからざる也、此の如くにして彼等と資本家との間は、最早普通の傭被傭の關係に非ずして、主從――飼主と飼犬と――の關係を生ず。彼等飼犬は野良犬たらんことを恐るゝが故に、今は早や唯命惟從ふの外なし。而も食へざることは例に依つて例の如し。已むを得ざるが故に、年二十五圓を以て可憐なる少年の勞力を賣らざるべからざることゝなり、妻子の內職となり、甚しくは多數の淫賣婦となる。新道、坊山等の淫賣窟は蓋し五十戸に上るべく、晝間は女となり夜間淫賣婦となる者も亦少なからず、從つて勞働者にして花柳病に罹らざるもの殆んど無き程なりといふ。

△此の如く飯にも女にも苦しめられつゝありながら、尚ほ勞働者は之を以て自業自得なりとし、相も變らずアキラメつゝあり。偶さか資本家より娯樂の一服を與へらるれば、萬朝報記者と同じく『大御代に生れし民の幸多きことよ』など、其德を頌して止まざらんとす。

△かゝる状態は資本家にとりて、甚だ都合よき事なれば、之を永續さする手段として、一方には高等奴隷の養成を必要とし、現に早稻田大學專攻科一年に在學する某を頭として、數名の留學生を出すと同時に、一方に於ては『野田で食はれぬことなし』といふ卑劣なる俚諺を作りつゝあり。然り、恩惠思想の發達せし野田に於て食はれぬ事はなかるべし、犬猫の状態に於て、乞食の境界に於て。

（六）教育機關

△野田町は尋常と高等との小學校を經營する爲めに[illegible]而して[illegible]高等科[illegible]兒童に對[illegible]野田[illegible]其の主[illegible]可なり[illegible]小學校[illegible]尋常小學[illegible]出[illegible]席[illegible]八十四人[illegible]十四人[illegible]食へぬ[illegible]爲めに[illegible]働[illegible]小兒なるなり。

（七）雑記

△野田の町外れに、仲臺といふ所の畑は、今や青き麥と桃の花とにて、充ち滿ちて居り。[illegible]味を[illegible]

△醤油の香[illegible]向[illegible]予は之を[illegible]江戸川一つ隔てた[illegible]

△下に此文を起し了りて、今更ながら自覺の乏しき[illegible]正直なる勞働者を[illegible]段の[illegible]はざる也（完）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

枯川兄の菜食主義を讀みて

大石祿亭

菜食主義につき、先日堺君の興味ある御話を承つたが、余も之に就て考ふる所を少しく述べて見よう。

食物の革命は早晩起るべき問題であるが之を研究するには理想的と實際的との二方面から行かねばなるまい。理想の方から言へば、我々は決して肉食を止めるに滿足せず、菜食をも廢絶して、所謂宇宙の大調化と言ふ所にまで及び、行く〱は風を食ひ氣を呑むと言ふ、仙人の境をも通り越し、終に何物をも害はずして我我の存在を保つに至るの日を望まねばならぬ。勿論牛を屠るよりは乳を搾る方がより善き仕方であり、鷄を殺すよりは卵を取る方が賢こき方法である。此筆法を植物礦物にまで延長し、終に萬有共同の域に達するは至極好ましい事であつて、其進歩の階段中菜食は肉食に一歩を進めたものであるとの、枯川兄の説は極めて穩健なものである。

併しながら實際に於て、今日採用すべき菜食は何であるかと言へば、人體の構造機能等を考へ、其營養を保つに必要なる菜食の種類と數量とを選ぶの必要がある

然るに人間と言ふものは、水ばかり飲んで居ても、百日餘りも生きられると云ふ、至つて融通の利き易いもので、一人や二人の經驗を擬へて議論するならば、理窟はどちらへでも附けられる。故に誰々は肉を喰はずに長生をしたとか、日本兵は菜食をする爲に戰爭に勝つと云ふ樣な事を以て全躰の人間に推論する事は出來ぬ。

純粹の菜食によつて人の健康を保つは、素より可能な事である、けれ共玆に菜食と言ふのは、現に幸德君等が巣鴨で實驗しつゝある樣な菜食主義でなく、其材料の選擇と配合とに、特別の注意を用ゐたものである。

人間の消化器が如何なる食物に適して居るかに就き、今日の醫學が一般に認める所は、單純なる肉食でもなく、菜食でもなく、雜食がよいと、言ふ事である。第一齒の性質を考ふるに、肉類を切る爲に虎狼の如き犬齒と、野菜を碎く爲に牛馬の如き臼齒とが備へられてある。第二菜食を消化するに必要な唾腺は、草食獸に於て甚だ大きく、肉食獸に於て甚だ小さく、人間は其中間に位して居る。第三胃の構造も肉食獸は小さくして簡單に、草食獸は概して大きく、特に鹿や山羊の如き反芻獸にあつては其胃が複數であつて最も粗糙なる植物性纖維をも消化するに適して居る、然るに人間はその何れへも偏したものでない。第四腸管の長さも、人間は草食獸の甚だ長きと肉食獸の甚だ短きとの間に介して居る。第五草食獸の盲腸は甚だ大きくして重要なる消化機關であるが、人間に於ては僅かに其痕跡を止め肉食獸にあつては、全く之を備ふるものがない。

動物性食品に含まるゝ滋養分は、概して之を植物性食品の中にも見出す事が出來る、併しながら其内の主要なる蛋白質の如きは、植物に於ける含量が甚だ少く、其性狀に於ても動物性蛋白質よりも遙かに消化し難い。左に掲ぐる表はフレデリツク、ホフマン氏の計算によつて、兩種食物消化の難易を示したるものである。

食物の量	植物性 消化	植物性 不消化	動物性 消化	動物性 不消化
固形百分中	七五、五	二四、五	八九、九	一一、一
蛋白百分中	四六、六	五三、四	八一、二	一八、八
脂肪及含水炭素百分中	九〇、三	九、七	九六、九	三、一

是によつて考へて見ると、單純なる菜食から人體の營養に必要なものを悉く攝取すると云ふ事は容易でない事がわかる。そこで菜食主義者は必然此缺點を補はんとて、其獻立の中へ卵と牛乳とを加へ、バタやチースも食ふ事にして。斯うなれば食料の範圍が大分に廣くなり、之を適宜に調和する時は、旨くして且つ滋養ある食物を得る事が出來る。併しながら斯の如き菜食料理を作るには、非常の手數を要し隨つて其費用も餘計にかゝる。彼の西洋に行はる、菜食料理店の獻立と言ふものを見ると、甚だ贅澤なものであつて肉食に厭いた人の慰み物でないかと思はるる程である、兎に角菜食主義と云ふものは今日直に汎く實行し難いものと言はねばならぬ。

けれ共、これは今日の人智から割出した話であつて、何時までも此困難が取り去られぬと言ふ譯でなく、後來菜食主義の利益となるべき發明が續々と出來るであらう。近頃植物性のマーガリンやコトリンが牛酪と豚脂の代りとして盛んに用ゐられつゝある如く、やがて穀物のグリューテン穀類のレギユーミンが或方法によつて消化し易きものとなり、動物性蛋白質の代用品となる事もあらう。

要するに食物進化の行程に於て、菜食主義は近き將來に實行せらるゝものであらうが、其菜食と言ふは單に今日の雜食から、すべての動物質を除いただけのものでなく、現時の菜食そのものに大なる改良を加へた上でなければならぬ。枯川兄が言ふ所の菜食も、多分こんな意味であらうが、若しもそれを履き違へて、人間は何んでも角んでも野菜だけを食て居れば十分である、南京米と菜葉の鹽漬をたべる我國の勞働者は、理想的の菜食家であるなど、言ふ樣になつては、唯さへ哀れな貧民が、益衰弱して卑屈に陷るであらう。故に余は斯の如き見地から菜食主義を研究し、貧民の食物問題と衝突せぬ樣に、十分の注意を加へたいものと思ふのである。

△枯川先生の菜食論誠に面白し、動物を殺して食ふといふは私はどうしても情に於て忍びない、サハ云へ肉體はごく〱甘いと來てるから、悟らしくてたまらない、併しよく〱考へると近頃ヲンナ感じもします、動物の肉は甘いことは甘いが、どこにか下品の味を帶びてる、シツコイ樣な厭味がする、植物性の食物は何となく風味がよい、殊に取りたての野菜類の味噌汁と來ては、無類飛切の味がします。枯川先生は菜食を實行しておゐでゝすか(菜氏)△先生は議論ばかりでトント實行はして居りません、滋養分の事などは別としても、今日の處、人と共に生活する上に於て到底行ふ事が出來ませぬ(枯川生)

萬國勞働者紀念日 五月一日（メーデー）

旭山生

△五月一日は萬國の勞働者が大祝日として、各々其都市に盛典を擧ぐる日となつて居りさす、處が此日が勞働者の大祝日たる由來に至つては、日本の同志の間にも餘り明かになつて居らぬかと思はれる、然れど吾等の事業が總て世界的である以上は、かゝる細事にも各國と協同するの精神を養ふて行くのは甚だ必要と思はれる故、玆に其由來を說明致します

△一言にして謂へば、五月一日は、歐洲諸國に於て非常に八ケ間しかつた勞働時間短縮運動に就ての紀念日なのであります

△此の短縮運動が尤も早く起つたのは英國で、殊に少年勞働者の爲めに此議論が起つた樣に思はれる、初めの程は十時間說出で、次では九時間說出で、此說を實行せんが爲めに屢々示威運動を爲し、ストライキを爲して、資本家に迫り、政府に要求して居りました

△處が此の勞働時間の問題は學者や經世家の間に種々なる議論が交へられ、玆に所謂八時間哲學なるものが生じた、此說は古くから米國に起つたので、八時間働き、八時間休み、八時間眠るのが人生の定則であるといふ樣な議論なのです

△英國に於てはジヨンバーンスやトムマンなど言ふ人が盡力して、一八八八年の頃、八時間說を以て勞働黨綱領の一に加へた

△かくて一八九〇年に至り、萬國勞働組合の大會が開かれて(多分倫敦市に開かれたりと思ふ)、此八時間法制定を要求する爲め、五月一日を以て各國各地に於て同時に大示威運動をなす事を決議致しました、此日此運動を行ふたのは、英國、獨乙、和蘭、丁抹、澳國、伊太利、西班牙、米國等の勞働者社會黨であります、佛國の人々も無論之に倣ふた事と思ひます、殊に英國ロンドン市のハイド公園に於て行はれたる運動の如きは其壯觀二十年來に見ざりし所であると當時の新聞記者が評して居ります、而して此運動は非常なる成功を來したので、五月一日といふ日は世界の勞働者が忘るべからざる祝日として、每年各國で大デモンストレーシヨン即ち示威運動を爲すの日となつたのです

△さて然らば今年は如何なる運動がありますか。私は單に米國に於ける其計畫に就ての外未だ聞くことが出來ません、米國ではニユー、ヨーク市の社會民主黨が發起となり、同市カーネギー、ホール於て四月三十日夜より大會合を催し、ベンジヤミン、ハンホード(昨年副大統領候補者たりし人)ジヨンブラオン二氏の演說あり其れより、幾十人の樂師に依る奏樂が擧行さるゝ筈であります、其歌は總て社會主義傳道を旨とせるものださうです、而して此計畫は三月中から豫告され、入場券も發賣され、廣告ナラシも配布され、各地方の團體へも招待狀を發し、準備はドコ迄も行屆いた樣子であります

△吾等も實は此日に於て大運動を試みたいとは兼てよりの考へであつて、折々は内々で相談もしたのであるが、昨年の園遊會はアノ通り、殊に近來の壓迫が烈しく、今年はトテも運動が出來まいと言ふので思ひ止まりました、併し吾等の運動はドコ迄も世界的でなければなりません、全國の同志諸君、假令唯だ心中になりと、ドウカ此日を紀念して、吾等は世界に於ける人道の戰ひの一戰士であることを忘れないで下さい

勞働の赤旗

（五月一日此詩を作る此日は萬國勞働者の紀念日也）

孤劍生

雲の扉ひらく日神の
赫灼として躍りいで
天地を照すごと
勞働の赤旗ひるがへる
永久の御空に光明の
勝閧揚ぐる時ぞいま
あゝ「渾沌」を服せずや
あゝ「闇黑」を倒せざる
悲痛の島に死の貝を
胸に抱きて泣く勿れ
革命の潮高鳴りて
破壞の斧はひらめけり
沙上に築く「富」の城
いで鶴嘴にこぼちなむ
波濤を鞭つ感情こそ
誰れか弱者と我を喚ぶ
自由か、墳墓か、擇ばざれ
拳よ、杖よ、血よ、涙
權力の前に抗爭ひて
正義の法廷に死なんのみ
天にみなぎり野に溢る
「民主」「自由」の歡聲に
萬有みな若き香を吹いて
復活の門美はしく
かくて勝利の凱歌揚げ
愛に自由の佳酒を
平和の杯に酌ましめよ
其の勞働の赤旗の下にて

◎王子の勞働者

我同志の一人が調査したる所に依れば、東京府下王子には左の如き多數の勞働者あり、而して吾人一日同地に演說會を開かんと欲したるに警察は其會場の借入を妨害して、事實上の禁止を敢てしたり

王子火藥廠(砲兵工廠支部)	約一〇〇〇名
印刷局抄紙部	約二〇〇〇名
東京製絨會社	約一〇〇〇名
王子製紙會社	約六〇〇名
日本メリヤス會社	約四〇〇名
關東酸曹會社	約四〇〇名
其他數個所	約一〇〇〇名

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

同志の運動

▲九州傳道行商記（三）

（筑後柳河より）　小田頼造

▲四月十六日（晴後雨）　朝蒔田に飯塚治作君を訪ふた同君宅の二階から見ると遠山は霞に包まれ、麥は青々と茂り、泥沼の畔に生えてる木々は新緑の裝を附け、眼に入る者は唯生々の氣のみである。されど天然と反對に春に遭ふとも村民の顏色には一の生氣もない。晝飯の御馳走になつて飯塚君と共に姉川に歸り、同地で同君に別れて佐賀に向つた。途中牛島に同志眞崎悟一君を訪問して夕餐の饗應を受け、夜同君に伴はれて佐賀の熱心なる同主義者古川牧民君を尋ねて同君宅に厄介になることになつた。恰も同志黒田讓作君等來會されて居た。眞崎君の尊父は十五年間の苦心經營の結果、素麪製造機械を發明された人で、目下五十餘名の勞働者を使役して居られる。僕は眞崎君の如き寧ろ資本家階級に屬する人が吾人の熱心なる同志であることを喜ぶ者である。君乞ふ一生を通じて終始の社會主義者たれ今夜の眠の如何に安らくありけるよ。▲十七日（晴）午後市中を行商し、商業會議所に戚下與三郎氏を訪ひ同君より市内の有力者に紹介して貰つた。此地に高利貸と貸家とを營業せる牧師が居る。同人曰く「金を持つのは惡いとはない、唯之を惡用するから惡い」と。されどもこんな社會では金を持つてふと自身が罪惡なのだ。夜同志諸君來訪。▲十八日（晴）　朝から市中を行商し吉田ヶ次郎、一ノ瀨太治郎等の諸君を訪ふた。「革命明成會々員」といふ標札が打付けてある家を見たから、驚いてどんな會かと尋ねて見たら、日蓮宗の改革を企圖する宗教團體だそうな。夜招魂社内の社務所で同志の小談話會を開いた。會する者十餘名、中には久留米から態々來會された劉君及び其友なる一人も居た予と眞崎君とが各々社會主義に關する談話をなし終りて種々の議論諸々が如くに起り、社會主義者の理想を人類に限るのは面白くないといふ說も出た。劉君等は夜十二時過の滊車で歸られた。僕は同君等の熱心に對し大に感謝の意を表するのである。▲十九日（晴）　今日は一日休息することにした。午後から[illegible]神社の神苑内で佐賀の同志七名と共に紀念の撮影をなし、其れが濟んで眞崎君古川君等と佐賀市の郊外にある神野の御茶屋（[illegible]の別邸）に遊び、[illegible]の餘りに[illegible]りし爲め[illegible]の社會主義的活動を再始するとに就て協議した。夕刻眞田君宅に歸宿。▲二十日（雨）　出立する筈であつたが、降雨が餘りに激しいので今一日休息することにした。朝より同志諸君來訪。夜同志と共に眞崎君を訪ふ僕の來るを動機として今後每週一回佐賀に同志の集會を開くことに定つた。佐賀は一時九州で社會主義が最も盛んな所であつたのである▲二十一日（晴）　朝出發。同志諸君市外迄見送らる。筑後川を滊船で渡り、久間田村に讀者を訪ふて會はず夕方柳河町に着き酒井義之氏を尋ね、町外れなる高畑に宿を定めて夜市中を行商し、在京中の愛讀者なりしといふ高椋公人、藤本秀吉二君に偶然面會した。僕は意外な所で意外の人に遭ふ者かと自ら驚き、又社會主義が如何に東都にある青年學生間に勢力を得つゝあるかを思ふて愉快に感じた。▲二十二日（晴）　朝から市内や市外を行商し、菊池武信、津村悅蔵等の諸氏を訪ふた。菊池氏は宮崎虎之助氏が自ら豫言者と稱する如く、自ら福音使と稱し、獨立せる基督敎の傳道師を以て自任せる宗教的狂熱ある、奇人である。▲此の一週日に於て百〇七册の社會主義書類を賣つた。

▲東北傳道行商日記（三）

（茨城縣牛久村より）　荒畑勝三

△四月十九日、今日は寶田、蟠谷、南羽島等に遠征に赴いた、寶田の坂宮氏の家で晝飯の馳走になり、蟠谷南羽島等に同志を訪ひ、夜は寶田の北總平民倶樂部に於て直言の讀者會を開いた、會衆十餘、今夜は小川氏の家に厄介になつた、僕の寐た處は曾て西川兄小田兄吉田兄等が寐た處だ相で何となく懷かしかつた、△二十日、平民社で一番寐坊だツた僕は旅へ出ても矢張り寐坊で今朝も起きると已に昨夜の同志諸君は大勢集つて談に花を咲かせて居た、正午、氏の家を辭して成田に戾り中學校新勝寺等を訪問した、此寺の還俗坊主を商人等は皆な「御利樣」と尊稱して居る、宗吾神社に詣でゝ佐倉に入る、呼々此大義人の墓に香花は絕えないが其志を繼ける者が一人でもあるかい、此夜宿屋へ巡査がやつて來て書類を調べて行つた、△二十一日、朝の中郵便局に中澤氏を訪ひ又讀者宮崎氏を訪ねたが氏は佐倉の兵營に在るので日曜でなければ出られぬとの事であつた、此地へは各地から俘虜見物に來る者が多い、曰く「今日は仕事を休むで見物に來た」曰く「アンナ面して日本の兵士に向たかと思ふと實に憎い」此れが實に正義人道を看板にして居る日本といふ小人島の人間の言だ！午後から又車を曳いて出立した、印旛沼の渡しへ出る途中東諸共哨の中へ轉倒れとなつて泥塗れになつた、岩戶に豊田氏を訪ひ厄介になる、△二十二日、夜明け方から雨が降り出した相だが僕が起きたら蒼い天に日の光りが美しかつた、此邊の道は非常に惡しく加ふるに今朝の雨で車が行けぬので氏の家で安息することゝなり一日を社會主義の議論に費やした、夜は又雨がシトシト降り出した、久しぶりで手紙を書いた、△二十三日、今日は豊田氏が木下まで送つてやると云はるゝので勇むで出發した、木綿村から木下へ出る山道は雨と荷馬車の爲めに深く刻られて僕の小さな車は陷まつて了ふとドウする事も出來ない、加ふるに泥に數ゝ度つもあつて實に弱つた、呼々行路難!!! 利根の渡しで豊田氏と袂を別ち又一人赤車を曳いて茨城縣に入る、茫々たる曠原の彼方に日は落ちむとして野は煙るが如、に黄昏いて行くのである、龍ヶ崎の宿屋に泊り同宿の商人に社會主義を說いた、△二十四日、昨夜社會主義に反對した商人に今朝二册の書を賣り付けた河原氏に同志木村氏を訪ひ同氏の盡力に依て龍ヶ崎町に行商を試みた、警察署長にも本を賣つた、可笑かつたのは道で小學校の教員に會ひ購讀を勸めたら「耶蘇敎と社會主義は大反對だ」と意張つて居るから「消費組合の話」を此れは社會主義ヂヤないから沖漸く賣り付けた、夜遅く木村氏方に歸る、△二十五日、十時過迄寐坊した、聞けば今朝早く巡査二人此家を訪つて僕の事を種々問うて行つたツウナ、正午頃、渥度は三人でやつて來て色々な事を尋ねたり本を買うたりして中の一人が僕に隨行することゝなつた、牛久村に小川芋錢氏を訪つた、夜は氏の家へ巡査が幾度もくやつて來るのでホントにお氣の毒だつた、僕年甫めて十九、明治政府のお役人を驚へて本を賣つた、ナント偉らかろう△此の一週間に於て七十六册の書籍を賣り一回の集會を開いた。

▲社會主義研究會

（平民社）

例の如く去る三十日午後六時半より開會、豫定の講話石川氏の「マツヂニーの社會主義評」及び小川氏の「苦學生問題と其解決」が終つて暫時休憩、其より木下氏は立て仲小路警保局長が發したる戀愛小說取締に關する訓令に對して評論を加へ、轉じて世の所謂小說家に警告する所あり、再轉して「小說は人生を實寫するものなり、人生にして戀愛なきは眞の人生にあらず、然らば戀愛無き小說は眞の小說に非ざる也、痴情小說と戀愛小說とは斷じて混同すべからず、而して此兩者を識別して、一を勸め、一を斥くるは、是れ一に文學者の責任にして、又た文學者のみ其權利あり、若夫れ之を以て彼の警吏官の職權に委ねるといふ如きに至つては、實に天下の滑稽と言はざる可らず」と論じ、侃々諤々、政府當局者を警めたり、次に原霞外氏のミルクホールの廣告あり、新聞賣子取締某氏の感想と希望とを述ぶるあり、活版工某氏の實行談あり、最後に堺氏は立て「今原君のお話によるとミルクホールは山口孤劍君と荒川のぶ子君と三人で經營して居るとの事であるが、荒川といふ婦人は實は原君の奧さんださうです、ドウして姓を異にして居るかと聞くと、それは夫人の意見に基くので、夫人の意見では、お互に夫婦になつて居るのは唯だ深く相愛するによるのですから、何も政府になぞお賴み申して改姓するには及びませんと、言ふのだそうです、念の爲めに申上げて置きます」と。其時丁度九時過ぎなれば閉會す、當夜來會者五十餘名狹き平民社樓上は立錐の地を餘さず「マッヂニーの社會主義評」は別に掲載すべし。

▲五月一日茶話會

（平民社）

△豫告の通り去る一日午後六時より開會、研究會の翌夜の事なれば、來會者は、如何あらんと思ひしに、追々詰めかけて、前は殆んど演臺の下へモグリ込まんばかり、後は梯子段に迄しもヅンナリ一ぱい立ち塞がり、さぞ諸君は熱苦しき事ならんとは亭主役の心を痛めし所なりき、△先づ石川三四郎氏は立つて五月一日が萬國勞働者の紀念日となれる由來を說明して開會の辭となし（別項[illegible]）次に堺利彥氏は吾黨の運動が世界的なることを說き、現に平民新聞の廢刊は各國の社會黨新聞が非常なる同情を以て之を報じ、幸德君等入獄の事を知るや直ちに見舞狀を寄せ來るといふ有樣なれば、吾等の此會合は此小さき所に行はるゝと雖ども、而も之が世界の社會黨運動の一部を成するものなるを思ふ時は大に意を强ふするを得ぬ」と、同時に、又た責任の重大なることを感ぜざるを得ぬ」と、來年よりは大に此日を紀念して盛んなる運動を試みんことを希望し、木下尚江氏又た立て日本に於ける勞働運動の自由無きを歎じ警察法の不條理を痛罵し、吾等の前途は猶ほ多くの艱難苦闘無かるべからずと說きて大いに來會者を激勵して壇を下る、△其より來會者の餘興に移り、例の岡千代坊君眞先に壇に登り、と滑稽の落語を二番續けて演じ、次は又た木下氏の落語にて、其輕妙にして人情を穿てる所、人をして思はず膝を打て感嘆せしむ、△木下氏壇を下りて後、或は「支那人の日本政府攻擊演說」といふ滑稽なる支那人の眞似事あり、或は「忍ばず池畔の身なげ」の落語あり、或はハンドオルガンによりて越後獅子を演ずるあり、或は悲哀痛恨を込めたる二通の往復文を朗讀して、會衆をして滂沱流涕腸を寸斷するの思ひあらしむるあり、其趣味の多方なる、近來稀に見るの會合なりき、△例により社會主義の歌を謳つて散じたるは午後九時半なりき。

▲演說會禁止の記

（王子）

王子が假令豆粒の樣な小さい土地とはいへ、一の工業地であるとは人の知る所で、其人口の七八分は憐な勞働者である、予は彼等を救濟すべく社會主義の演說會を開く事に決した、平民社へも相談して贊成を得會場を定め、愈々四月廿三日午後七時よりといふ事になつた、處が愚かなる迫害は此處にも襲つて來た、予は廿二日午前十一時頃警察署に召喚され、喝罵、嘲諭、威嚇の後、演說會は止めよ、廣告の幾部は皆く本署に預つて置くぞ、モウ用は無いから歸へれ、との言渡に呆れ果てゝ門を出た時はモウ五時半であつた、平民社へは此事を翌朝通知したが、行き違ひになつて辯士として六名の同志が來て吳れた、其れを徒勞に歸せしめたのは實にお氣の毒でもあり、又殘念であつた（小野木靜郞）

▲いろは倶樂部觀櫻會

（岡山）

廿二日午後一時より操山頂に開く、會する者僅かに六名、森近氏の發議で市中傳道を思ひ立つ、降山の途中或は隱々に瓢を釣りたるYW生、或は將に昇らんとする同志數名に會し勢を得て共に道を後樂園に取り檄を配布し、後樂園に於ては現代に於ける戀愛の不自由（森近生）日本花柳病豫防會設置に就て（SY生）の演說ありたり、此時雨漸く降り出づ、雨中檄を配布しつゝ[illegible]に至る、此に反對者に會し、火花を散らして論戰し、其より和氣氏宅に談話會を開き例の宗教問題で十二時迄議論した（Yの生）

▲佐野同胞會

（栃木縣）

去る四月廿九日午後二時佐野町に開く、集る者五名、左の事項を決議し、佐野公園に散步しつゝ快談し、午後五時散會せり。

△本會は同胞會と稱す△事務所を栃木縣佐野町に置く△社會主義者及び贊成者を以て組織す、△社會主義運動及傳道を以て目的とす、△每月一回（十五日）例會を開く△經費は總て會員負擔の事△當分事務は佐野町百四十一番地近藤政平取扱ふ事。

平民社同人編

革命婦人

價十錢（郵稅不要）

五月十日發行

吾人は此小冊子を溫良貞淑なる日本婦人の膝下に呈す。然れども吾人は必ずしも、溫良貞淑なる日本婦人の直ちに之に傚はんことを求むるに非らず只溫良貞淑なる日本婦人も、世には斯くの如く熱烈なる、斯くの如く勇猛なる、而も斯くの如く愛人の念に富める婦人あるを見て、聊か感奮する所あらんことを希ふのみ。內容目次左の如し。

△露國革命の祖母プレスコウスカヤ（肖像入）
△佛國勞働者の女神、ルイズ、ミツセル（肖像入）
△蝶胡花の如き少女（肖像入）
△シベリア獄中の烈婦
△カラ女囚の飢餓同盟（ハンガー、ストライキ）

發行所　東京市麴町區有樂町三丁目　平民社

新刊紹介

▲人生の行路（吉川潤二郎譯）　ヘートと云ふ人の著「ウエルス、バイ、ウエイサイド」を飜譯せるものなり、譯者曰く「人は其一生を通じて學校に就學する一個の學生に異ならず、而して本書は人生學校の初級より最終級まで適用せらるべき一大教科書なり」と、而して本書に論ずる所は、曰く男子の本分、曰く女子の本分、曰く男女の戀愛、曰く家庭の生活、曰く兒童、曰く老年、人生の私生活に關する總ての題目に及ばざるは無し、殊に老若男女あらゆる方面に對して好伴侶たるべきの書なり。文章もハヤりよく、譯文の平易なる亦[illegible]の所なし、（定價三十錢、本郷駒込西片町出版協會）

▲聖書之研究（六三）　本號「聖書之研究の名と別る」の一文を掲げて曰く「今や汝の名を去るべし、然れども余は終生汝の實を離れざるべし、「新希望」は汝の變名なり、即ち汝の精を歌ふ者なり」と、即ち「聖書の研究」の名は本號を以て廢せられ、「新希望」の名新たに起ることを豫告しる者なり、尤も「新希望」の初刊は六月十日に發行せらるべしといふ、吾人は「新希望」が如何に新たる光明を揭げて人生の將來を照らすかを今より翹望して待つ者なり。

▲東洋學藝雜誌（二八三）　神田三崎町東洋學藝社
▲東洋經濟雜誌（一二八三）　京橋彌左衞門町其社
▲曙光（四）　本郷西片町曙光社
▲繪はがき大觀（二の五）　小石川久堅町日本葉書會
▲勞働（十五）　南品川利田新地[illegible]社
▲活宗教（十六）　芝區二本榎町其社
▲信州青年雜誌（七）　信州松本市其社
▲天鼓（三二）　麻布笄町相愛社
▲法律新聞（二七六）　日本橋本銀町其社
▲婦女新聞（二六〇）　牛込[illegible]町其社
▲經濟新聞（廿六）　日本橋[illegible]町其社
▲國民評論（三）　神田三崎町三の一其社
▲夕潮（一〇三）　加賀上金石夕潮會
▲[illegible]評論（一三九）　信州上諏訪町其社
▲女子之友（一六七）　牛込[illegible]町[illegible]社
▲中央公論（五）　本郷駒込西片町反省社
▲婦人（六の五）　小石川[illegible]
▲成功（六の五）　本郷弓町一の八其社
▲渡米雜誌（九の五）　神田三崎町渡米協會
▲[illegible]友（五六）　淀橋町字角筈[illegible]
▲家庭週報（廿二）　小石川目白臺女子大學
▲新公論（五）　本郷四丁目新公論社
▲日曜[illegible]誌（一八四）　麻布飯倉町聖教社
▲六合雜誌（二九三）　芝三田四國町ゆにてりあん
▲女鑑（十五の五）　京橋築地國光社

今日の會合

▲社會主義婦人講演　今七日午後二時より例の通り平民社樓上に開く、會費金五錢、婦人は何人にても來聽隨意、男子は婦人に同伴せられんことを希望す、豫定の講演左の如し

△ベーベル氏の婦人論（一）　堺利彥
△女性犯罪の二方面　白柳秀湖
△現今社會主義婦人の使命　松岡文子

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

人生の行路

吉川潤二郎譯

●最新刊▲定價金參拾錢▲郵税二錢

人生行路難 此書は人生の正徑を踏みて最良なる正活を營まんと欲する者に慰安と奬勵とを與へ之を指導するものなり

【要目】▲【人生】とは何ぞ▲【男子】の本分▲【幼年】時代の行路▲【少年】時代の行路▲【壯年】時代の行路▲【中年】時代の行路▲【女子】の本分▲男女の【戀愛】▲結婚前の戀愛▲【結婚】▲新郎と新婦▲【夫婦】の感化▲【家庭】の生活▲家庭の感化▲兒童▲老年▲【死】とは何ぞ▲不朽の生命等也

スマイルス原著 處世分論（續編）（新刊）定價五拾錢 郵税六錢 四版割引定價四拾錢 郵税拾錢

少年園編 東京遊學案内（第二十版）本年五月改正定價金五拾錢 郵税六錢

渡邊修二郎著 英和書翰文例 定價金參拾五錢 郵税貳錢

東京本郷駒込西片町十番地 内外出版協會

外科皮膚病 梅毒科的婦人科尿道 痲痔外器械的療法

診察 午前九時より十二時まで

東京 新橋際出雲橋 加藤病院 電話新橋二〇三

院長 醫學士 加藤時次郎

分院 横濱神奈川驛前 火木土 午後三時より至六時 小田原驛前 毎月曜午前中

正則中學講義録

▲會員は時々講師高等師範諸教諭▲科外講師博士學士三十餘家▲講義新式にして會費最も低廉▲優待生の特典あり▲四月より新學期開始す

東京神田區北神保町（電話本局三千四番）

大日本國民中學會

▲詳細規則は最寄の高等小學校長に問合はすか又は直接本會に申込め無料進呈す

科外大改良の論說 大附録●機關雜誌 新國民 には無料進呈●目下入學の最好機

新公論

▲當世生活十家（佐治實然）

▲東西列國の學術的集中（社論）

▲策を講ず可し　澤柳政太郎

▲大阪に國立博物館 海外無賃渡航の設備をなす可し　根本正

▲日露開戰の點火者 トムソン　幕村隠士

▲現代人物評論

▲米國の學生演劇　野口米次郎

▲航海と人類 ▲花柳病雜話 ▲新日本村觀 ▲數字の東京 ▲小說二絃琴 ▲文士と動物 ▲風俗白觀 ▲新聞散睨み

▼附録日本語アリアン語比較表（不井金三）

坪井正五郎　栗本庸勝　新天生　千風行者　澤　噯　公閑　諾

●雜誌の雜誌 毎號全國有力の雜誌中より其重なる思潮を紹介す社會の萬報本紙一冊に吸收せたり

●定價 一冊金十二錢 郵税共十三錢 半年七十六錢 一年一圓四十二錢 清韓以外海外は郵税一冊六錢

●賣捌 東京堂 上田屋 文明堂 其他各雜誌書店

發行 東京本郷四丁目五番地 新公論社

求貸間（六疊）早稲田大學生、四谷坂町鶴舘町、附近ニテ姓名在社

●神經衰弱 遺精早漏陰萎物起力記臆力衰退手淫の害

●陰莖包皮無痛速治療法

●梅毒・りん病・痔疾

●婦人科●せうかち●子宮病●血の道●月經不順

●地方患者は返信料添へ申込む可し

東京市神田區西今川町三番地 愛生醫院

活版印刷

東京築地二丁目廿一番地

株式會社 國光社

電話 特新橋八八 新橋二六九三

傳染病研究所 養生園 東京病院 其他各病院 御用

專賣特許 アルボース

ペスト、赤痢、コレラ等の傳染病を恐るゝ者は日常アルボース石鹸を使用せよ又しつ、ひぜん、田虫等の皮膚病及霜やけ、垢切れ等の凍傷病一切にも有効なるとの世評高し▲定價原液一斤入金卅五錢通常液一斤入金拾三錢同卅五斤入金二圓▲石鹸大形金拾三錢同小形金八錢

東京深川區東扇橋町五番地 扇橋製藥株式會社

▲賣捌所 全國各藥店及び小間物店

美術文學 月刊すけっち

定價貳拾錢 郵税貳錢

●第壹號四月十八日既刊▼毎日新聞の評に「佐日「……第一號載する所の繪畫には中澤弘光氏の「佐渡が島」（色鉛筆）、三宅克己氏の「森の路」（水彩）同氏の「木」何番の家」岡田三郎助氏の「一葉縫」等の此畫其他臨畫書稿あり、文章にて坪内逍遙氏の「肺臟敎育に漢字を全廢すべし」を始として諸文士の筆各々其特色を發揮し、編輯誠に氣の利いた趣味を具ふ……」

●第貳號▲五月十日發行▼三宅克己筆「朝」（三色版）湖畔（彩色木版）岡田三郎助筆「嵯峨野山」山本森之助筆 對色黄昏 其他スケッチ十一圖▲時文には由外、吊花、花外、り郊、枯川、默村、秋山、天遊、古雪、孝湖、泡鳴、渚山、御風、未明、露葉、春情、孤劍、諸氏の作、三宅氏のスケッチ家に一言、及坂井犀水氏の佛國派畫家大平洋畫會展覽會評其他

發行所 東京市本郷區元町一ノ十六 スケッチ會

辯護士 卜部喜太郎

東京市麹町區上六番町二番地 電話番町六二六番

ジョン、モーレー氏著 柴山山太君譯

●社會と主義 定價十錢 郵税二錢

グラットストン氏を說服して愛蘭自治法案を提出せしめたる平民政治家ジョン、モーレー氏が冷靜なる頭腦を以て社會發達の根源を觀察して斷案を下したるものなり現時の民政的大理想を知らんと欲する者は必ず一讀せざる可らず

納卷星湖君著

●信仰餘賦 小星（再版）定價十八錢 郵税二錢

美文麗句にもあらず又巧想妙思にもあらず唯人生の野邊に闇黑と荒寥とを感ずる世の兄弟姉妹に對して一片の光明と慰藉とを供する小星たるなり

加藤直士君譯

●英和對譯 ロバルトソンの美訓 定價二十錢 郵税二錢

北亞米利加州沿岸日本人傳道監督 イ、エーストルチ博士序文 稻澤謙一君、手塚勇之助君譯述

●四福音書研究 定價三十錢 郵税不要

●人道の偉人 定價卅錢 郵税不要

米國博士トーレー氏著 井正平君譯

●聖書研究の栞 定價十五錢 郵税二錢

佐藤紅緑作

●惡魔評定 定價三錢 郵税二錢

稲田錠二君著

●處女の死と靈魂不滅 定價三錢五厘 郵税二錢

松永文雄君編

●片岡健吉傳（肖像入）定價廿五錢 郵税四錢

同君著

●時代と青年 定價二十錢 郵税不要

高濱長江君著

●嗚呼亡友 定價十錢 郵税二錢

大關和子著（東京看護婦會長）

●派出看護婦心得（再版）定價十錢 郵税二錢

吉村大次郎君著

●最近視察苦學生の天國 青年の渡米（第五版）定價廿五錢 郵税不要

發行所 東京市神田猿樂町廿五番地 中庸堂

平民文庫出版廣告

●社會主義入門 平民社同人編 定價十錢

●消費組合の話 石川旭山著 定價十二錢

●地上の理想國 瑞西 安部磯雄著 定價十五錢

●社會民主黨建設者 ラサール 幸徳秋水著 定價十五錢

●土地國有論 西川光次郎著 定價十錢

●富の壓制 西川光次郎著 定價十錢

●マルクス（品切）

●經濟進化論 田添鐵二著 定價十五錢

●小說 火の柱 木下尚江著 定價廿五錢

●小說 良人の自白 木下尚江著 定價金卅五錢

（以上總べて郵税を要せず）

五錢本之部（一部價五錢郵税一錢 但二部以上郵税不要）

●百年後の新社會 堺枯川抄譯

●理想鄉 堺枯川抄譯

●ジョン・バーンス 西川光次郎著

發行所 東京市麹町區有樂町三丁目 平民社

取次所 大阪市中ノ島宗是町田養橋南詰 大阪平民社

辯護士 花井卓藏

東京市神田區錦町一丁目二番地 電話本局八八三番

男女生殖器病專門 内科外科 涙紅醫院

院長 醫士一瀨嚴一 東京神田連雀町十八 電車萬世橋下

診察無料藥術料任意

▲本紙定價 一部三錢五厘、廿部前金六十五錢 五十部前金一圓六十錢、郵税不要
▲廣告料 一行十九字詰三十錢
▲注文 は總べて前金に限る
▲郵券代用 にて御送金の場合は必ず一割増とし成るべく五厘の切手を用ひられたし

發行兼編輯人 原眞一郎
印刷人 山田金市郎
發行所 東京府荏原郡入新井村字新井宿二五五七番地 直行社
發賣所 東京市麹町區有樂町三丁目 平民社 電話（本）三三六二
印刷所 東京築地二丁目二十一番地 株式會社 國光社 電話新橋特八八、新橋六九三二

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY